

第8回研究発表大会 抄録集

SFCをご退職された先生方による講演(研究発表大会特別企画)／
一般研究発表／卒業プロジェクト発表



慶應義塾大学湘南藤沢学会

Keio SFC Academic Society



慶應義塾大学SFCへの感謝と期待

明治学院大学国際学部教授
慶應義塾大学名誉教授

岡部光明

2010年11月23日

© Mitsuru Okabe 2010

1

1. SFC退任以降の3年間

(1) SFC退任(2007年8月)とその後

- 在任中の恩恵と感謝:最終講義(岡部2007)
- 退任後:明治学院大学国際学部
- しかしSFCとの関係は切れるどころか多面的に維持させていただいている

2

(2) 引き続き多面的な関わり

- ブラウンバッグランチセミナー
- 大学院 政策・メディア研究科での院生指導、学位審査
- 湘南藤沢学会: Discussion Paper、論文冊子 (Okabe 2008) 刊行など
- 「総合政策学の創造」(國領学部長担当授業)での講義(本年5月)
- SFC20周年式典(本年4月)

3



院生諸君 岡部 香川教授(現名誉教授) 渡邊教授⁴

(3) 感想

- SFCを訪問する際には緊張。それと同時になつかしさも。
- 研究への刺激そして大学運営に関するヒントを与えてくれることに感謝。
- SFCの馬力、速度、そして適度な「いい加減さ」には改めて感心。

5

2. SFC学生諸君へのメッセージ

(1) SFC20周年記念式典(4月)

- 式典直後、元岡部ゼミ生同士(3名)も私も偶然再会 → そこから得られたメッセージ

1) 富田賢君

- 卒業後は、米系金融機関、大学専任講師などを経験。
- 2008年、経営コンサルティング会社(約10社の関連子会社を保有)の社長に就任。現在に至る。

6



富田賢君 相原史乃さん 遠藤英湖さん



富田君 経営セミナーの運営、各種講演などで多忙な日々

2) 遠藤英湖さん

- 在学中から「日本と中国との間における架け橋になりたい」という強い夢。
- 現在は、在日中国人向けに日本最大の発行部数を誇る中国語新聞「東方時報」(発行部数12万部)の記者。同社唯一の日本人記者。

3) 相原史乃さん

- 卒業後は、印刷・不動産会社の経営、飲食業の会社起業などを経験。
- 2009年8月、衆議院議員選挙で初当選(民主党)。小沢一郎政治塾(2001年設立)第1期生。

9



遠藤さん 相原さん 1995年岡部ゼミ



遠藤さん

香港の人気俳優アンディ・ラウ氏を取材中(俳優の右手上が遠藤さん)。

このあと単独インタビューに成功。

11

相原さん

衆議院「消費者問題特別委員会」で食の安全に関して質問(2010年3月)

——福島みずほ消費者担当大臣(当時)が答弁



12

(2) 三つの軌跡の共通点

一職業を、単に生活費獲得のための活動とみるのではなく、より深いところからの呼びかけへの対応と捉えている。

- 1) 冨田君: 誠実な(インテグリティ)事業展開による社会貢献を社是。
- 2) 遠藤さん: 読者の心の琴線に触れるような記事。日中相互理解の促進。
- 3) 相原さん: 現場の声を吸収、心のある政治。

13

(3) 三人の共通点からのメッセージ

1. 道はそれぞれ異なっても、生き生きと精一杯自分の仕事に日々邁進している。
2. 3人とも自分にとって本当の道(使命、あるいは天職)を発見している。したがって、多忙ながら非常に充実した生活。
3. 人にはそれぞれ呼びかけられた任務(calling、天職、人生の仕事)がある(高橋 2009)。学生諸君は是非それを見つけてほしい(岡部 2009d)。

14

3. SFCの院生・教員への期待

(1) 総合政策学とは? ひとつの優れた「説明」:
(本年春の入試問題「資料1 総合政策とは何か」)

1. ガバメント → ガバナンス
2. 個別科学中心主義 → 問題中心主義
3. まず問題発見(問題設定)が必要
4. 問題解決の過程で得られる「知見」を循環的に活用可能

15

(2) 近年における試み

- 小島・岡部(2003)『総合政策学の最先端!』
- 大江・岡部・梅垣(2006)『総合政策学』(文部科学省21世紀COEプログラム)
- 私自身、学際性を特徴とする「国際学部」に在籍しているので、その研究は継続(岡部 2009a、2009b、2009c、2009c、2010b)。
- その後のSFC:いくつかの具体的成果の発表はある(今村他2010、田島・山本 2009)が、体系化の試みはあまりない?

16

(3) 総合政策学のいくつかの基本と期待

- 学際研究の必要性。多様な視点は多様な解釈を可能にし、真実に迫る(Page 2007)。
- 二分法を超える必要性。
- SFCへの期待:
 - 一教員は総合政策学の理論化をさらに推し進めてほしい。
 - 一院生は総合政策学を意識した枠組みでの研究、あるいはその発想に基づく論文構成を活用してほしい。

17

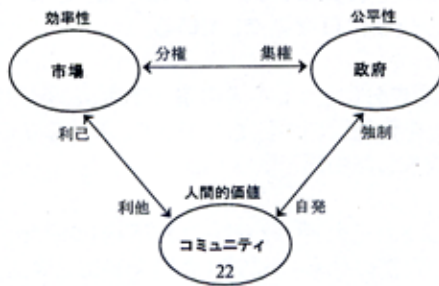
■文脈効果の例: 学際研究の必要性

ABC
1234

(出典) Kahneman (2003).

18

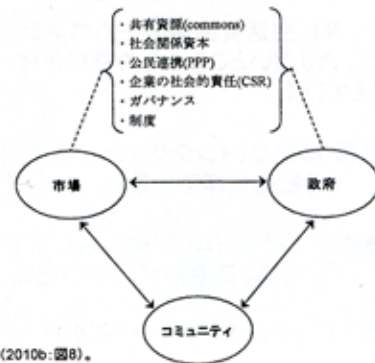
■「第三部門」の重要化：二分法を超える視点の必要性



(出所)岡部(2009b:図表3)。

19

■総合政策学に関連する各種キーワード



(出所)岡部(2010b:図8)。

20

4. 結論

1. SFCは、退任後も私の職業生活を支え続けてくれており、また頼もしい学生に接する機会を与えてくれたので、私は深く感謝している。SFCは多くの人を引きつけるマグネット(磁石)である。
2. 人にはそれぞれ呼びかけられた任務(calling、天職)がある。それは、その人にしか果たせない使命であり、人生の仕事である。

21

3. 使命は他人から示されるものではなく、自分の内側にあるものを自分で発見する以外にない。ただ、その努力をすれば大きな力が助けてくれる。
4. 学生の皆さんは是非そうしてほしい。すると力が出る。忙しいが元気な生活ができる。それが結果的に各自の本当の社会貢献につながる。
5. 総合政策学の「説明」は色々なされているが、より明確かつ説得性の高い体系化・理論化に向けて引き続き努力する必要がある。教員および大学院生の皆さんにはそれを期待したい。

以上
22

引用文献

[1] 今村晴彦・園田紫乃・金子郁容(2010)『コミュニティのちから-「遠慮がちな」ソーシャル・キャピタルの発見-』慶應義塾大学出版会。
 [2] 大江守之・岡部光明・梅垣理郎(編)(2006)『総合政策学-問題発見・解決の手法と実践-』慶應義塾大学出版会。
 [3] 岡部光明(2007)『日本経済と私とSFC:これまでの歩みとメッセージ(慶應義塾大学最終講義)』慶應義塾大学出版会。
 [4] 岡部光明(2009a)『国際学の発展-学際研究の悩みと強み-』SFCディスカッションペーパー-SFC-DP 2009-003。 <http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/publication/dp_list2009.html>
 [5] 岡部光明(2009b)『経済学の新展開、限界、および今後の課題』SFCディスカッションペーパー-SFC-DP 2009-004。 <http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/publication/dp_list2009.html>
 [6] 岡部光明(2009c)『付録3 総合政策学の理論化(試案)』『国際学の発展-学際研究の悩みと強み-』SFCディスカッションペーパー-SFC-DP 2009-003。 <http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/publication/dp_list2009.html>
 [7] 岡部光明(2009d)『大学生へのメッセージ-遠く望んで道を拓こう-』(日本図書館協会選定図書)慶應義塾大学出版会。
 [8] 岡部光明(2010a)『為替相場の変動と貿易収支:マーシャル＝ラーナー条件の一般化とJカーブ効果の統合』SFCディスカッションペーパー-SFC-DP 2010-001。 <http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/publication/dp_list2010.html>

23

[9] 岡部光明(2010b)『経済政策の目標と運営についての再検討:二分法を超えて(序説)』SFCディスカッションペーパー-SFC-DP2010-002。 <http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/publication/dp_list2010.html>
 [10] 小島朋之・岡部光明(2003)『総合政策学とは何か』(『総合政策学の最先端!』の序文)慶應義塾大学大学院21世紀COEプログラム、総合政策学ワーキングペーパーシリーズ第1号。 <<http://coe21-policy.sfc.keio.ac.jp/ja/wp/index.html>>
 [11] 高橋佳子(2009)『Calling 試練は呼びかける』三宝出版。
 [12] 田島英一・山本純一(編)(2009)『協働体主義-中間組織が開くオルタナティブ-』慶應義塾大学出版会。
 [13] Okabe, Mitsuaki (2008) "Corporate Governance in Japan: Evolution, Policy Measures, and Future Issues," Keio SFC Academic Society, SFC-RM 2008-005, July, 67 pages.
 [14] Kahneman, Daniel (2003) "Maps of bounded rationality: Psychology for behavioral economics," *American Economic Review* 93 (5), December.
 [15] Page, Scott E. (2007) *The Difference: How the Power of Diversity Creates Better Groups, Firms, Schools, and Societies*, Princeton University Press.

24